

其砌幸と籬下一族人数を押出候、譜代之者共一人松永へ奉公  
に出し居申候、密談にて被頼候、相心得申候由にて幸大坂之門跡  
へ加勢を頼被遣候、彼者を使者として被申付候、順慶へ其趣  
を通ス、順慶二百騎はかり大坂よりの加勢に出為<sup>イテ</sup>立<sup>セ</sup>、河内の  
平野まで夜之内に遣し置、松永の使者帰る時分平野に人数  
を相隨へ城内へ夜之内に入置、扱信忠公の軍士を未明より取  
かけ惣責に被遊候、右に入置人数も城に火を揚裏切仕候、松永  
父子天主へ上り切腹被仕候、子息松永右衛門佐久通ハ南都多  
門へ被落爰にて自害、又父母一所に自害とも云、夫より国侍  
皆々筒井へ随ひ武威盛に成にけり、天正十一癸未年五月  
に病死被致候、其後伊賀国へ所替被仰付居城す、関ヶ原御陣  
の後三年目に家臣中坊左近と出頭人出来に付て 公儀へ  
罷出候而対決之上にて、筒井伊賀守定次悪事共数多有之  
に付て切腹被致、伊賀御改易に成

筒井之籬下大将分五十騎也